

大学入学共通テスト型 国語記述問題について

このたび、「大学入学共通テスト」の第1問として出題される予定であった記述問題について、その導入を見送る旨の発表がありました。これまで指摘されてきたさまざまな問題点について十分な改善が望めないのであれば、今回の決定は（受験生の皆さんの腹立ちや困惑を思うと大変心が痛みますが）やむを得ないことと思われま

す。しかしながら、共通テスト型記述問題、およびその種の問題の演習については、なお一定の意義と可能性が認められることも、また確かであると考えられます。

共通テスト記述問題は、大学入試センターから公表された〈モデル問題〉および2回の試行調査を通じて、次のA～Cを問う問題として作成されていました。

- A 複数のテキスト（同一文章内の本文と図表、あるいは異なる複数の文章・資料）の関連性を把握し、それらを用いて考えを構築する力
- B 実用的な文章・資料を扱う力（2017年の試行調査まで）
- C 要求に即して必要な情報を同定し、統合・解釈（場合によっては推論などを含む補足や変形）を加えた上で、条件に沿って（言い換えなどを含む形で）再構成する力

このうちAは、試行調査のマーク式全問題においても一貫して採用されている方針（2017年試行調査の小説でさえも、〈原典のあらすじ〉と〈それを基にした創作小説〉との複数テキスト）であり、Bは、2018年試行調査において、記述問題で論理的文章が出題された代わりにともいうかのように、マーク式の第2問（ポスター・法律）で問われたものです。したがって、記述問題の実施が見送りとなった以上、マーク式の評論が〈実用的文章・資料〉との〈複数テキスト〉形式で出題される可能性は高まったものと考えられます。またCは、共通テストの設問の特徴として、記述式・マーク式を問わず見られるものであり、そうした思考過程を求めるマーク式設問の対策として、同様の思考過程を踏む記述式問題が最も効果的な演習となることは言うまでもありません（〈適切な答えを自分で思い浮かべられる〉力こそ、最も早くそして的確に〈適切な答えを選べる〉力なのですから）。つまり、共通テスト型記述問題の演習は、共通テストのマーク式問題対策としても有効なものだと言えます。

また、既に2018年、2019年の大学入試において、共通テスト記述問題を意識した現代文の問題が、国公立大学を中心にかなり多く出題されるようになってきました。さらに言えば、中学入試・高校入試においても、類似の問題が頻出するようになっており、〈入試の現代文〉全体が、明らかにその方向に進んでいるものとみることができます。その意味では、共通テスト型記述問題の演習は、単に共通テストマーク式問題の対策となるにとどまらず、2020年度以降の大学入試全般の対策として有効なものであると考えられます。

さらに言えば、先に示したA～Cの特徴は、テキストの理解において（書き手の記述に沿っ

てその意図するところを線条的に追い理解することを前提としつつ、さらに) 読み手の側が自らの目的に従って複数のテキストを渉猟し、それらの内容を再構成して自己の思考を推し進めていく (A・C) という、私たちが現実の生活の中で行っている頭の働かせ方 (B) により近い思考法を必要とするものです。もちろん、古典的な思想や文学に多く触れ、その内容を吸収することの重要性は言うまでもありませんが、それらを総合し、あるいは発展させて、自らの思考を主体的に形づくっていくためには、先のような特徴を持つ問題による練習も不可欠なものだと言えます。また、「自己採点」は、自らの思考や表現を客観的にとらえ直す「メタ認知」の練習として意義のあるものです。

実際の共通テストの記述問題は理想的なものにはなっておらず、実施に当たったの諸問題を解消することも容易ではありません。しかし、以上述べた通り、それが目指すものには一定の意義と可能性があり、十分に考えられた問題による演習には、(先に述べたように 2020 年度以降の入試への対策としてはもちろんですが、それにとどまらない) 教育的効果があるものと考えます。これまで共通テスト型記述問題の演習に取り組んできた皆さん、あるいはこれから同種の問題やその発展形の問題に取り組もうと考えている皆さんは、そうした観点をもって、今後の学習を進めて戴ければと思います。

駿台予備学校現代文科 高2 駿台共通テスト対策模試出題担当